

■ご挨拶

理事就任のご挨拶



一般社団法人 日本風力発電協会 理事 柴垣 徹
株式会社東芝 エネルギーシステムソリューション社 火力水力機器技師長

はじめに

このたび、本年度再び理事を務めさせて頂くことになりました(株)東芝の柴垣でございます。

東芝の風力事業については、韓国風車機器メーカーとの資本提携による販売・技術サービス、及び、風力発電子会社による発電事業を行っております。メーカーとユーザーとしての両面の立場から、風力事業の発展に貢献したく、どうぞ宜しくお願いいたします。

電源としての風力発電

私事ではございますが、現在風力も含め、弊社の火力(地熱を含む)、水力発電機器の技術の統括に携わっており、これら歴史ある電源に対し、比較的新しい風力発電の発展を大いに期待している一人であります。

火力、水力は百年の歴史があり、その技術は成熟している一方、立地も含めた発展性という観点では国内では飽和している感も否めません。一方風力においては、単機出力の増大等の技術開発は正に成長分野であり、発電単価の低減といった観点から見れば、最もポテンシャルがある電源と考えています。

もちろん、自然相手の発電方式ですので、火力等に比べ安定的とは言えませんが、風力発電と例えば可変速揚水発電と組合せれば、自然に優しく、安定した電源が構成できます。

これには、広域における系統運用や電力取引が必要であります。この風力発電のポテンシャルについて協会活動を通して発信して行き、風力発電の比率を増加させ、地球温暖化防止の一助となるよう活動をして行く所存であります。

風力発電所の建設促進について

現在東芝の風力発電子会社にて、22MWの既設発電事業に加え、16MWの新規風力発電所を建設中であります。

特に新規 PJ 立上げには、環境アセスや系統

連系等のハードルにも増して、地域の方々に喜ばれる発電所に仕立てることが、風力発電の発展には必須と考えております。

地球温暖化の観点から、風力発電等の再生可能エネルギーの有効利用には賛成意見の方々でも、いざ地元で発電所の計画となると、低周波や騒音など、様々な不安要素を挙げられ、難色を示されることが一般的であります。

一方、弊社が運営している風力発電所の地域では、風力発電の想定していた不安は、ほぼ払拭され、地域発展に貢献していると認めて頂いており、系統や行政が許せば、もっと建てて欲しいとの要望があることも事実です。

このような声を基にした地域発の発電計画が活性化し、全国各所に地消・地産の発電所が建設される日は近いと考えております。一方、地域との築き上げてきた信頼関係が崩壊せぬよう、メンテナンスも含めた安定した運用・技術開発に真摯に取り組んで参ります。

もちろん、自然相手の風力発電においては、雷や台風、乱流等による外乱から、事故を皆無にする事は困難と思っておりますが、より信頼性のある機器の製造、メンテナンス技術の充実等、メーカーの立場からも技術力の向上を図って行き、日本の様々な地域から、風力発電所の建設を要請されるような環境作りに邁進して参ります。

おわりに

以上、メーカーとユーザーといった両面の風力事業運営で得た経験や情報を、可能な限り協会会員の皆様と共有することで、風力発電の発展の一助となるよう努力して参ります。

協会の会員の皆様からのご協力とご支援を糧に、風力発電事業の発展といった、地球環境に優しい日本のエネルギー社会の実現に寄与して参りますので、宜しくご指導下さるようお願い申し上げます。